

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2871500332		
法人名	医療法人 いちえ会		
事業所名	グループホーム いちごの家・加茂		
所在地	洲本市桑間松ヶ本492 (電話) 0799-26-1001		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-8		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年10月4日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

洲本市内の市街地であり、幹線道路より病院や老健施設の敷地を隔ててやや奥まったところにグループホームがある。同一法人内で病院や老健施設があるため、緊急的に医療処置が必要になった場合でも協力が得られやすい環境にある。食事では地産のものや旬の食材を使うことにこだわり、また、一緒に買い物に行ったり、調理を皆で行うなど利用者の持つ力をいかす努力をしている。近隣にはすぐにいける店等はあまりないが、外出することを重要視しており、機会がある毎に利用者の希望を聞きながら散歩・買い物等に行っている。運営推進会議の開催により地域の方との理解や結びつきが強まりつつあるので、今後は協力関係を築きながら利用者の生活の幅をさらに上げていくことが期待される。

【情報提供票より】(平成19年 7月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤 4人	常勤換算16.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,400 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	10 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.2 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洲本伊月病院
---------	--------

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 施設方法についての改善が課題となっていたが、現状の見守りだけでは無理があるとの判断から継続して検討課題となっている。今後の改善に向けた取り組みが期待される。地域との交流については自治会や老人会の行事に積極的に参加したり運営推進会議の中で情報交換を行うようにしている。ボランティアの受け入れについては引き続き課題として残っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 自己評価については職員全員が関わり、総合ケア検討会等で確認をしながら、主任と管理者でまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 運営推進会議は開始以降2ヶ月に1回のペースを守りながら開催している。市とはグループホームの実践等について情報交換を行うことに相互に勉強しあう関係にある。回を重ねるごとに家族の意見も出てくるようになって来ており、今後の協議が運営にいかされることが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 2ヶ月に1回のホーム便りの送付や、家族の訪問時、また3ヶ月に1回の家族を招いた昼食会の際等で状況を伝えたり、意見等を聞くようにしている。家族から出された意見等は職員間で話しあったり、管理者と相談しながら方針を決めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 自治会、老人会には加入していないが行事等の案内は受けており、今年から地区の納涼祭にも参加している。老人保健施設等併設事業所と合同で行なう夏祭り等の行事の案内をしており、地域からの参加者も多い。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基にホームの行動目標を定めている。地域貢献が法人理念にあり、行動目標にも地域との協同が示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は名札の裏に入れ、行動目標は掲示し、確認ができるようにしている。また毎日のカンファレンスでその日あった出来事とその対応について具体的に話すことで、常に共有し全員が意識できるようにしている。		グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられているので、今後地域との関わりを検討する中で、職員間でも具体的に話し合い共有する取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には加入していないが行事等の案内は受けており、今年から地区の納涼祭にも参加している。老人保健施設等併設事業所と合同で行なう夏祭り等の行事の案内をしており、地域からの参加者も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を真摯に受け止めて前向きに改善するように全員で話しあっている。今回の自己評価も職員全員で行い総合ケア検討会等を経て主任と管理者でまとめている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年11月から会議の準備を行い、今年に入ってから2ヵ月に1回のペースで実施している。地域の方が地域の情報を教えてくれるようになり、また回を重ねると家族からの発言も増えており、今後の継続した取り組みの中でサービス向上に対する議論を行なっていく予定である。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム開設当初より、市に対してはホームの実践の様子や存在意義をアピールしてきており、市側からは質の改善に向けた最新の情報を入手できるように日ごろから市の担当課へも出向き、情報交換を大切にしている。</p>		
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回広報誌の「いちごはうす」を発行し定期的に手紙と共に家族に送付している。3ヶ月に1度は家族を招待した昼食会を開催し、家族が訪問しやすくまた、職員との交流ができる場を設けている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、家族からは不満や苦情までは出ていないがホームとしての良い部分についての意見が徐々に出てきている。問い合わせや苦情等は家族の訪問時や電話などで職員や主任に伝えられ、その場で回答できない内容の場合は、管理者や他の職員と話し合っ決めて、結果を伝えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常勤職員の異動はしないようにしている。ユニット毎に職員配置するのではなく、2ユニット内を職員は交替で勤務し、職員は全利用者とのコミュニケーションをとり、把握するようにしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤やパート職員の区別をせずに法人内研修や、実践者研修等外部の研修を受けるようにしている。外部研修を受講すれば研修レポートを回覧したり、昼の会議で報告する等内容周知をしている。また、資格（介護福祉士、ケアマネジャー等）をとれば資格手当を支給し意欲の向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国のグループホーム協会や県の連絡会にも加入している。大会や研修等で知り合ったホームへ見学に行く等、他のホームの良いところを取り入れる努力をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来てお茶を飲みながら他の利用者と過ごす等してもらうようにしている。ホームのデイサービスを利用してもらったり、居室の空いている時には体験入居して慣れてから入ってもらうこともできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	漁師だった利用者からは魚のさばき方を教えてもらったり、お寿司屋でパートをしていた方には酢飯の作り方や巻き寿司の巻き方を教えてもらったりするなど、一緒に考え、一緒に笑う関係作りを心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が話したことや反応に注意を向け、何をするにも本人の希望を確認しながら、また、家族とも相談しながら、利用者本人の思いを実現させるよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の状況は全職員が把握できる様に各ユニットのローテーションを行っている。介護計画はケアマネジャーと計画作成担当者等が家族等の意見も考慮しながら案を作成し、週に1回のミーティングや月に1回の総合ケア検討会で話し合いを行い介護計画の作成時に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは原則として半年に1回および状況変化のある時としているが、月に1回の総合ケア検討会で職員同士の話し合いを行い、ケア内容の点検を行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームでデイサービスやショートステイ事業を実施している。常勤看護師1名を雇用して医療連携体制もっており、利用者の医療的支援が速やかに行なえるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との連携もとられているが、多くの利用者は同法人併設の洲本伊月病院へ通院している。近隣の歯科医、眼科医との連携もとられておりいつでも適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは終末期ケアは行われていない。重度化した場合はホームでできることとできないことを踏まえて早めに家族と話し合いを行い、併設の老健施設等へ退居していくまでは、かかりつけ医と相談しながらケアしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	聞こえにくい方には職員が耳元で話をしており、否定的な言葉は使わないようにしている。ケアプラン等の個人記録等は職員室内のロッカーに保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調等に合わせた支援を心がけており、散歩・買い物・畑仕事・洗濯物たたみや、何もしたくないことも含めその都度聞いたり様子を見たりしながら支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は厨房だけではなく、食事をするテーブルでも食材を切ったり和えたりしており、できる人みんなが自然に食事の準備をしたり、調理の様子を見たりしている。配膳や後片付けも利用者自身が行っており、職員はテーブル毎に座って利用者とは話をしたり様子を見たりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日や時間帯は利用者の希望を聞き、それに合わせている。浴槽が大きく深いのでゆったり入れるが、体の状況に応じて補助具等を使用し、お湯の量や温度も希望に合わせており一人ずつ湯を入れ替えている。利用者の状況に応じて声かけしたり見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの外に畑や芝生、花の鉢植え等があり、水やりや手入れを行っている。また買い物好きな利用者には声をかけて外出支援している。新聞も2誌とっており、1階で読み終わったら2階の新聞を読みに行く方もいる。隣接の老健へ書道等の教室にも興味に応じて出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に気軽に歩いて出かけられるような店等はないが、外出に関しては積極的に行う方針であり、買い物等も利用者の希望が出れば、個々に誘って車で買い物に出たり、皆で外出に出たりしている。ホーム玄関前にベンチを置き、利用者はそこに出て過ごしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者本人が施錠を希望することを除き、鍵はしていない。ホームの玄関は原則として施錠し、日中に3～4時間程度開錠している。帰宅願望の利用者もおり職員の目の届く範囲で開錠時間を延ばして行くことを検討している。		今後地域との協力関係を築いていく意向であり、協力を得ながら日中施錠しないようにしていく方針であるので、実現が期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設の事業所と合同であるが、事業所間の協力体制を考え年2回の消防訓練では夜間を想定した訓練も行われており、消防署とのホットラインも設けられている。また地震の時や、水害の前例を教訓にした訓練を行っている。		地域の方との協力体制までは組まれていないが、運営推進会等で地域の方にホームの状況を理解いただいたり、地域の情報を得られたりするようになってきている。今後、災害時の相互の協力体制を考えて行く等の検討が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	水分量については、三度の食事の時やおやつの際の飲み物の量を確認しながら必要な量が摂れているかどうかをチェックしている。必要量が取れていない利用者については、その都度水分を摂るように勧めている。栄養バランスは老健の栄養士のアドバイスを受けながら確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関周りには鉢植えにした季節の花を色とりどりに置いたり、塀にかけている。リビングの壁には押し絵や絵画などの装飾品がさりげなく飾られ、居間にはソファを置いて絨毯を敷き、数人でテレビを見たり話したりできるように配置している。部屋の明かりや空調も利用者に聞きながら調整している。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	各居室には二段の押入れと洗面台が設置されている。使い慣れた家具等の持ち込みを働きかけ、利用者は椅子とテーブルのセット等を持ちこんでいる。		

 は、重点項目。